

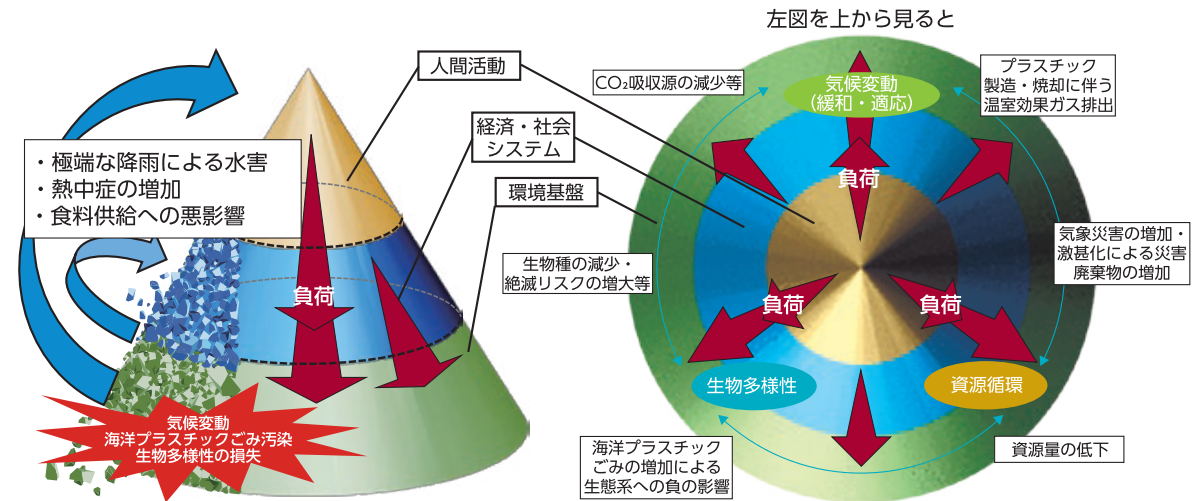
1. はじめに
2. 気候変動に伴う異常気象・気象災害
3. 気候変動と温室効果ガスのメカニズム
4. パリ協定とは
5. カーボンニュートラルとは
6. シズトクの環境経営の基本方針

# 1. はじめに

現代の私たちの生活や経済・社会システムは安定的で豊かな環境の基盤の上に成立しています。しかしながら人間活動の増大は、地球環境へ大きな負荷をかけており、**気候変動問題**や**海洋プラスチックごみ汚染**、**生物多様性の損失**などの様々な形で地球環境の危機をもたらしています。これらの問題は、私たちが日常便利に利用しているモノやサービスと深く関わりがあり、資源の採掘、運搬、生産、加工、使用等の長いサプライチェーンを通じて地球環境に影響を与えています。

私たち自らによって作り出した気候変動、資源の不適正な管理、生物多様性の損失といった問題は、私たちにとって最適な環境の基盤を破壊し、経済・社会システムや生活にも悪影響を及ぼしつつあります。(図1)

図1 人間活動、社会・経済システム、環境基盤の相互関係のイメージ



出典：「気候変動問題をはじめとした 地球環境の危機」PDF（環境省）  
[https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r02/pdf/1\\_1.pdf](https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r02/pdf/1_1.pdf)

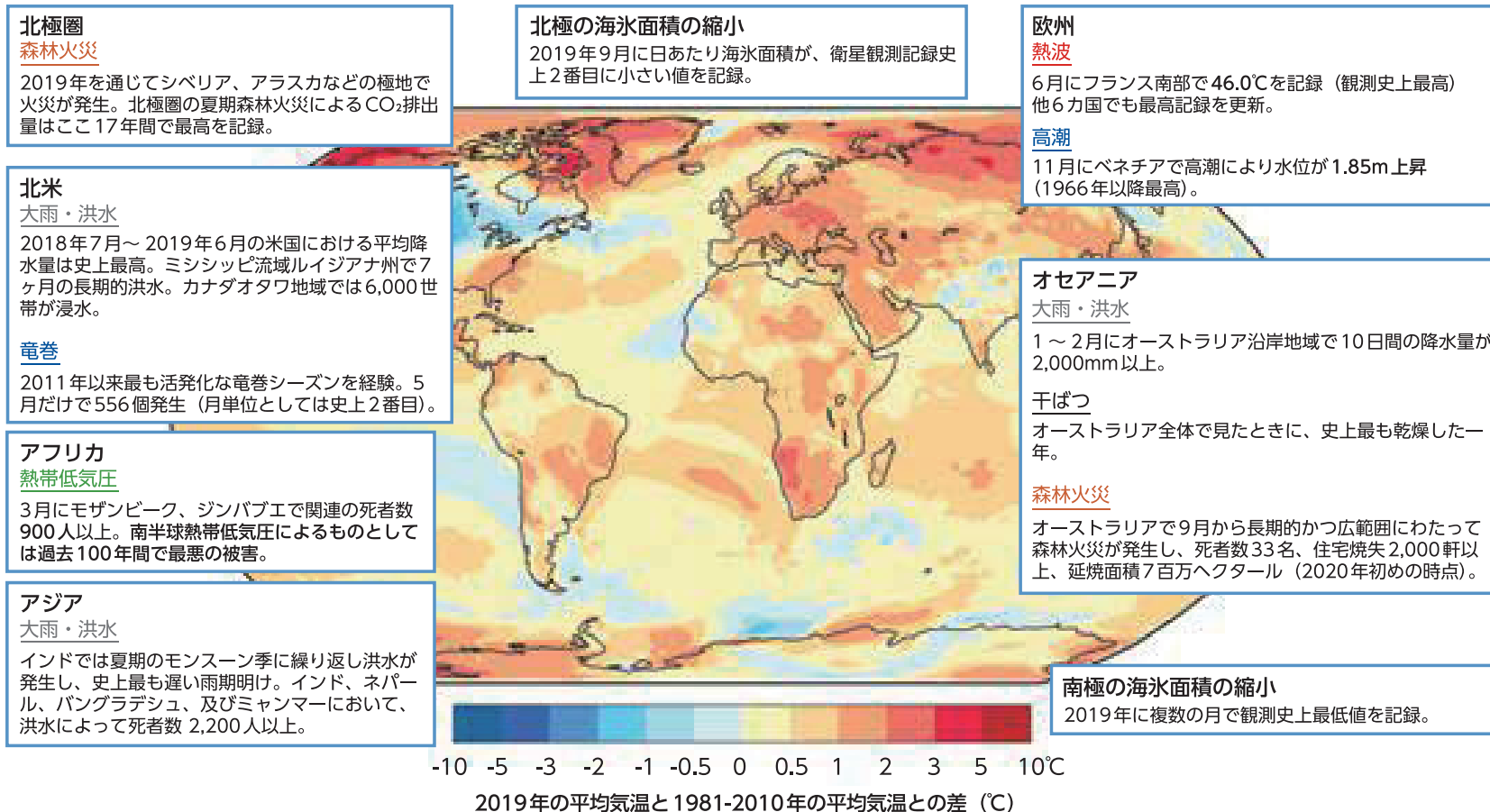
こうした地球環境の危機に対処するため、国際社会として世界全体で協力して社会変革を図っていく必要があります。

気候変動問題を中心に個々の問題や国際的な動向・枠組みの「パリ協定」、  
「カーボンニュートラル」について説明していきます。

## 2. 気候変動に伴う異常気象・気象災害

世界気象機関(WMO)によれば、2019年の世界の平均気温は観測史上、2016年に次いで2番目に高い年となり、欧州では記録的な熱波を経験しました。2019年を通じてシベリア、アラスカなどの北極圏で火災が発生し、**夏期森林火災によるCO<sub>2</sub>排出量はここ17年間で最高を記録**しました。(図2)

図2 2019年の世界各地の異常気象



# 3. 気候変動と温室効果ガスのメカニズム

様々な異常気象は地球温暖化によって起こっています。

石油や石炭、天然ガスを燃やして電気を作ったり自動車や飛行機を動かしたりすることで、二酸化炭素やメタンなどの「温室効果ガス」が空気中に増えていきます。

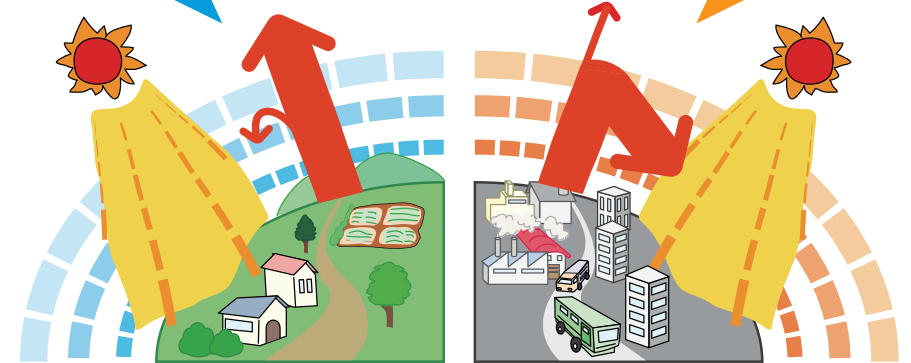
この温室効果ガスによって世界の平均地表面の温度は約14°Cに保たれています。しかし、産業革命以降急激に温室効果ガスは増えており、温暖化が加速しています。(図3)

過度に温室効果ガスが増えると、地球の気温を上昇させ、私たちの生活にも影響が出ます。

図3 地球温暖化のしくみ

昔、温室効果ガスが適量だったため余分な熱は宇宙へ放出されていました。

現在、温室効果ガスが増えすぎたため宇宙への熱の放出が少なく、余分な熱が残ってしまっています。



出典：「地球温暖化ってなあに？」(環境省) <https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo/h24/files/06-07p.pdf>

## 気候変動(地球温暖化)の影響

### 気温の上昇による真夏日・猛暑日の増加

日本の年平均気温は、100年当たり1.21°Cの割合で上昇しています。

### 降水と乾燥の極端化

世界的に雨の降り方が変化すると予測されています。一般に、温暖化すると海面の温度が上昇し、大気に供給される水蒸気が増えるため、降水量の増加につながります。一方で、もともと雨の少ない乾燥した地域の多くでは降水量が減少し、さらに乾燥化が進むと予測されています。

### 海水温・海面水位の上昇

温暖化により、海水が温められ、熱膨張により海面の水位が上昇します。島嶼国では海面水位の上昇により国土の喪失が懸念されています。

### 自然環境への影響

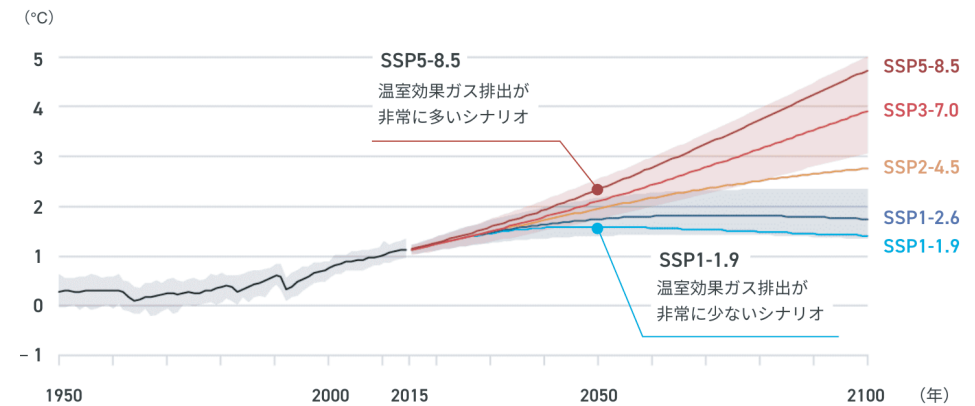
- ・温暖化によりこれまで寒冷であった地域が温暖になることで感染症を媒介する昆虫の生息域が変化する可能性があります。デング熱等を媒介するヒトスジシマカの生息域が変化し、デング熱等のリスクを増加させる可能性が指摘されています。
- ・海水温の変化や海洋がより多くのCO2を吸収することによる海洋酸性化の進行に伴う海洋生物の分布域の変化が世界中で報告されています。
- ・野生動植物への影響も懸念されます。我が国では、21世紀末には東北地方の全ての高山帯、中部山岳域のほとんどの高山帯に相当する環境を持つ地域が消失すると予測されています。

## 4. パリ協定とは

世界の平均気温は2020年時点で、工業化以前(1850~1900年)と比べ、既に約**1.1°C**上昇したことが示されています。(図4)  
このままの状況が続けば、**更なる気温上昇が予測されています。**

そのため、国際的取り決めを話し合う「国連気候変動枠組条約締約国会議(通称COP)」において、  
**2020年以降の温室効果ガスの排出削減等に向けた取組を進めるための枠組みとして、パリ協定が採択されました。**

図4 1850~1900年を基準とした世界平均気温の変化



IPCC 第6次評価報告書 第1作業部会報告書 | 気候変動 2021:自然科学的根拠  
出典:「カーボンニュートラルとは - 脱炭素ポータル」(環境省)  
[https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon\\_neutral/about/#to-why](https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/about/#to-why)

### パリ協定の概要

1. 世界の平均気温上昇を産業革命以前から**2°Cより十分下方に抑えるとともに、1.5°Cに抑える努力を継続**すること。
2. 今世紀後半に**温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡を達成**すること
3. すべての締結国に義務が課されている。主要排出国を含む全ての国が**削減目標を5年ごとに提出・更新**すること。

...etc

## 5. カーボンニュートラルとは

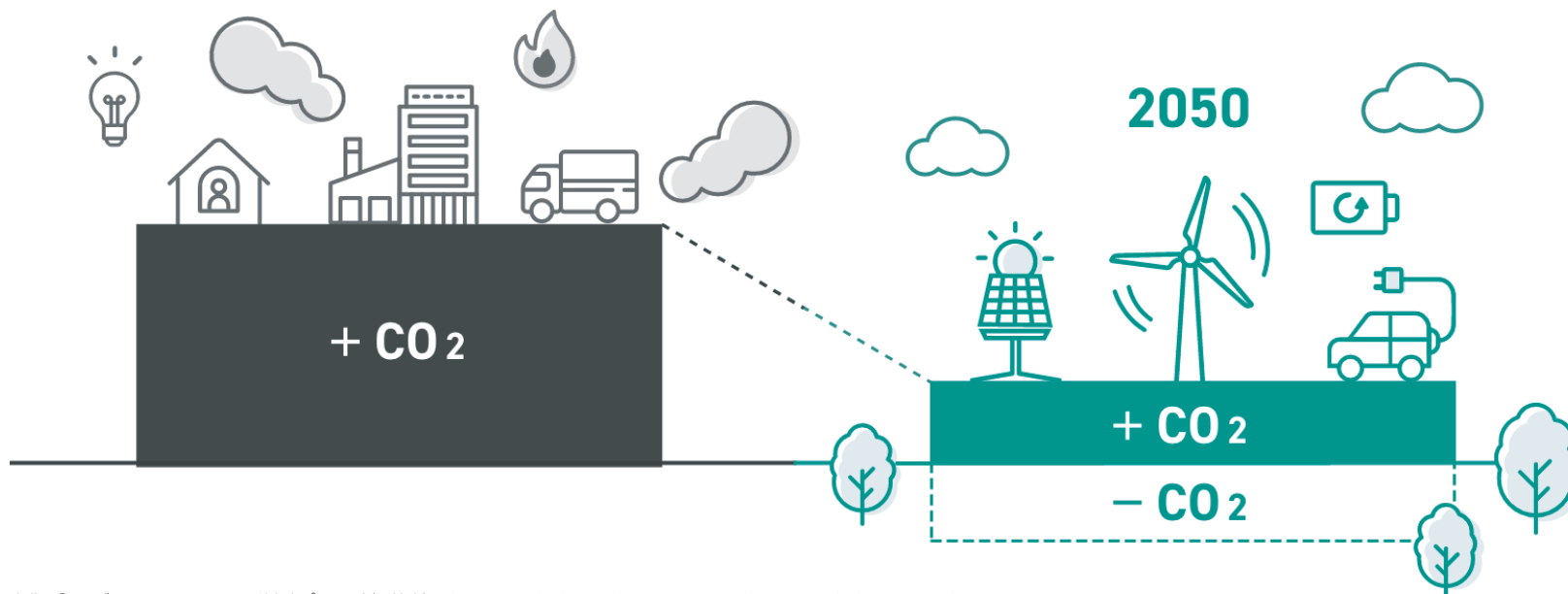
2020年10月、政府は**2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、  
カーボンニュートラル**を目指すことを宣言しました。

「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」\*から、植林、森林管理などによる「吸収量」\*を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。(図5) ※人為的なもの

カーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化をする必要があります。

この実現に向けて、世界が取組を進めており、120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げているところです。

図5 カーボンニュートラルのしくみ



### 環境方針

株式会社シズトクは、信頼の技術力とダイナミズム、そしてオリジナリティに富む企画力で「包む」の一步先を目指します。環境に配慮した製品の開発・販売はもとより、全ての企業活動の中で環境問題に積極的に取り組んでいくため、環境の保護に関する方針を以下の通り定めます。

1. 当社は、Total Packaging Solution を通じて、環境に優しいパッケージ及びサービスの提供に努め、環境と調和したご提案を積極的に行っていきます。
2. 梱包・梱包資材の販売活動及びサービス活動においては、常に環境への影響に配慮し、ステークホルダーと協力しながら資材の有効利用、気候変動への取組み、生物多様性及び生態系の保護等を含む環境保全・環境保護、汚染の予防に努めます。
3. 当社の環境マネジメントシステムの充実とその要求事項への適合重要性を意識し、環境目標を定め、実践し、定期的な見直しを行うことで、継続的改善に努めるとともに環境パフォーマンス向上を目指します！
5. 地域の環境保全に努め、社会に貢献いたします。
4. 関連する環境の法規制。条例及び当社の同意するその他の要求事項を順守いたします。
6. この環境方針を全従業員に周知するとともに、一般にも公開します。